

令和5年度第2回大田区障がい者施策推進会議 書面参加者意見一覧

番号	議題(1) 次期「おおた障がい施策推進プラン」の骨子の概要について	回答
1	変更点は現状に即したもので重要な視点と考えます。	
2	<p>骨子の内容が3区分で分かり易かったです。</p> <p>3区分中央の「第3章 施策の展開」より 分かり易かったポイントを記載します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規追加項目の主な変更点の記載概要が示されており、分かり易かったです。 ・意思疎通支援・情報保障の促進で R2.9 月の「大田区手話言語及び意思疎通に関する条例」施行、R4.5 月の「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」の記載があり条例などの施行経過が時系列で分かり良かったです。 ・R2.9月施行による「大田区手話言語及び意思疎通に関する条例」の項目より手話も障がい特性の言語のひとつであり、その他に障がい特性に応じたものが更に5種類あること、HPのパンフを見ることで「マークを知ろうやヘルプカードの紹介も記載されており」障がい特性の確認できました。 	<p>次期プランについては、経年の変化が見やすくなるよう現行プランの構成を基本とし、上位計画である「地域福祉計画」や「おおた高齢者施策推進プラン」などの関連する個別計画との整合性や、実態調査などから見えた課題、国や都の動向、社会情勢等を踏まえ、策定しております。</p>
3	<p>第5章 計画の推進に向けて では計画の進捗状況が示されており、計画の実施状況に関する検証などPDCAサイクルで管理が行われることも明記されておりました。</p>	<p>「第5章 計画の推進に向けて」では、計画の実施状況に関する評価・検証を行うために、計画のモニタリング指標を設定し、計画の進行管理を行うとともに、必要に応じて見直しや改善を行います。</p>
	<p>議題(2) 次期「おおた障がい施策推進プラン」 第2章(大田区の障がい者の状況と施策の課題)について</p>	<p>回答</p>
4	<p>令和4年の実態調査及び各種統計調査を吟味分析され、丁寧に課題を抽出されています。特に、追加指摘することはありません。</p>	
5	<p>P20 3. 実態調査に基づく障がい者施策の課題より</p> <p>1. 施策課題の設定は「課題抽出のフロー図」の流れにより集約され、①～⑩の求められる課題と項目集計からできています。紙面の状況にもよりますが、項目と集計数値だけで、具体的な事項や意見の記載が有ると、意見の反映が施策に繋がったことが回答者に分かるのではないのでしょうか。</p>	<p>障がい者施策の課題については、次期プランの新たな視点として、障がい者施策推進会議での意見のほかに、障がい施策に関連した会議体である自立支援協議会や、精神保健福祉地域支援推進会議、子ども・子育て会議などにおける意見についても記載しています。</p>

6	<p>P42 ⑨防災防犯対策の推進・・・</p> <p>最近「災害と福祉」の問題が、更にクローズアップされてきました。防災対策は自助・共助・公助の連携による充実と言われております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それらの対策にマイタイムラインや避難行動要支援者名簿の作成、個別避難計画に繋がります。 ・これら避難計画は、災害時のみでなく普段の日常の声掛けから始まります。 <p>そしてここ数年は新型コロナウイルス感染症防止対策もありさらに希薄化されています。5類移行に伴い各町会内では、一斉清掃や盆踊り地域神社の祭禮などの人賑わいの復活がみられます。これからは、新たな町会活動の「不易と流行」の人賑わいの在り方へと更新されていくと思われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年6月に災害時要支援者名簿掲載対象や条件の見直しなどもあり、継続して名簿に記載された方などありました。 <p>そして時間経過もあり、名簿記載状況も変わってきています。個別支援計画を進めるにあたり対象者の見極めも必要と思ひます。</p> <p>避難計画の作成は、地域町会、民生児童委員、行政と一体になり作成していくのが、より充実した支援体制へとつながるのではないのでしょうか？</p>	<p>避難行動要支援者名簿については、様々な機会を通じて周知・登録勧奨を行ってあります。また、避難行動要支援者名簿の活用の更なる推進のため、自治会・町会、民生委員向けの活用の手引きなどの更新を行ってあります。</p> <p>個別避難計画の作成に当たっては、障害者の状況及び生活状況を踏まえ水害時ハイリスク者をリストアップし、より避難の優先度が高い方から計画作成に向けた事前ヒアリングを実施いたしました。また、事前ヒアリングの結果自宅避難を想定しているなど、公助による支援が不要な方については、計画を完成させ、ご本人への送付を進めております。</p> <p>今後とも個別避難計画の作成を含めた要配慮者支援方法の検討や、支援組織の拡充等に取り組んで参ります。</p>
	その他	回答
7	<p>これから地域共生社会への在り方が求められています、地域は色々な方々の集合体で成り立っています。高層マンションなど増えてきていますが、地域は皆で声掛け合って自助・近所・共助・公助が関わり連携していくのだと考えます。</p>	<p>地域活動が活発な大田区で、地域住民や多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、一人ひとりの暮らしと生きがいもてるような地域をともに創っていく、大田区らしい地域共生社会の実現に向けて、引き続き取り組んで参ります。</p>

※書面参加者意見につきましては、原文をそのまま引用しております。